

民主島根

2019年
2.3
第1329号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

中国地方各地でいっせい宣伝 力を合わせ「原発ゼロ」へ

尾村・大國県議を先頭に議員ら訴え

中国5県の日本共産党は1月18日、統一地方選と参院選での市民と野党の共闘、党の勝利をめざし、各地で一斉宣伝しました。

松江市では、尾村としなり県議、橋祥朗、吉儀敬子、田中肇の各市議が街頭演説し、「市民と野党が力を合わせれば政治を変えられる。政治を変えたいとの願いを日本共産党へ」と呼びかけました。

尾村氏は「みなさんと力を合わせて原発ゼロ、国いいなりの県政を変えます」と訴えました。

演説を聞いた会社員の男性(40)は「地震大国の日本で原発を動かすのはどう考えてもおかしい。国民の安全を優先すべきだ」と話し、別の男



党の躍進を訴える(左から)田中、橋、尾村、吉儀の各氏(松江市)



性(64)は「国民は政治不信になっていきます。野党共闘に期待したい」

津 安倍政治サヨナラの年に 新春のつどい開く

日本共産党江津市委員会は1月20日、市民と野党の共闘勝利と党の躍進で安倍政権サヨナラの



と語りました。

出雲市では大國陽介県議が朝宣伝しました。

森川佳英市議はアメリカいいなり、財界・大企業を倒すため、共産党は全力を尽くすと表明。多田伸治市議は市長の提案をそのまま容認する市議会を批判し、市民の願いが届く議会になると述べました。

社民党の山本誉県議は違憲立法を強行し、国民に貧困と格差を押し付ける安倍政権を批判。「行きつく所は戦争する国づくりです。みなさんと力を合わせて政治を変えていきたい」と訴えました。

政策ポスター掲げ スタンディング

大國県議と女性後援会

日本共産党の大國陽介県議は、統一地方選、参院選で安倍暴走政治に審判を下そうと女性後援会のみなさんとともに定例宣伝をスタート(出雲市役所前・毎週金曜日午後3時)。

この日は、届いたばかりの新しい政策ポスターをプラスターにして賑やかにアピールし、党の風を吹かせました。



消費税率廃止県各界連絡会は1月24日、JR松江駅前前で宣伝し、「消費税10%への増税中止の声を広げよう」と呼びかけました。

県商工団体連合会の大西寿弥事務局長が「税金の集め方、使い方をただせば増税しなくても社会保障の財源は生まれま

県各界連「消費税増税中止」求め宣伝行動

す」と述べ、「社会保障を削りながらトランプ大統領領言いなりを浪費的に爆買いを進める安倍政治を変えましょう」と訴えました。(写真)

通りがかった女性(42)は「消費税は上げなくてもいい」と話し、別の女性(72)は「年金が減らされ、暮らしが大変。10%増税は嫌です。やめてほしい」と語りました。

女性(88)は「増税するなら、大儲けしている大企業や大金持ちにすべきです」と話しました。

緑と水の郷・山陰で語る 日本の歩むべき道
原発ゼロ・自然エネルギー活用の未来 小泉純一郎氏講演会
2月16日(土) 開場12:20 講演13:00
島根県民会館・大ホール
●参加費500円(中学生以下、介助者1人 無料)
主催:「小泉純一郎氏講演会山陰実行委員会」
問合せ先:島根原発・エネルギー問題県民連絡会(TEL:0852-22-7316)

鼓動

感動で胸がいっぱいです。がんばりましょう!」「よし子フィーバーふたたび、がんばってください!」「他の野党との協議がまとまることを願っています。参院鳥取・島根選挙区予定候補として中林よし子元衆院議員を発表後、全国から次々に反響が寄せられている▼29歳で国政に初挑戦し、「島根の太陽」「くらしのよし子」と言われ、1979年に初当選。住民運動と力をあわせて海干拓を中止させ、BSE問題では当時の小泉純一郎首相を徹底追及し、政府の責任を認めさせた。実力は国会で試されずみだ▼初当選後、中国新聞が「新人議員」中林さんの活躍ぶりを特集している。「私にはよくわかりませんが」と素朴な疑問で食いついたのは住民の声そのままであったし、弱い立場の国民の暮らしを守るという中林さんの政治活動の出発点だった(1980年3月11日中国新聞)。

住民の切実な声をつかみ、住民の思いをストレートに議会で訴え、政治を動かしていく。ここに「くらしのよし子」の真骨頂がある▼「中海干拓を中止させたよし子さんに、原発稼働を中止してほしい」「消費税増税をストップしてほしい」。安倍政権の暴走ストップへ、願いは切実だ。「島根の太陽」から「野党共闘の太陽」へ、みんなの力で押し上げていきたい▼「私は1945年、終戦の年の生まれです。戦争のない日本を築いていく。これが私の使命。人生をかけてがんばっていききたい」。中林元衆院議員は各地で訴えている。この決意をわが決意として、日本の命運がかかるたたかいに全力でのぞみたい。(後)